

## 第1章 愛知県生涯学習推進計画の基本的な考え方

### 1 計画策定の背景と趣旨

- 愛知県では、平成8年度に本県の生涯学習関連施策を総合的かつ効果的に推進するため、21世紀初頭を目指した愛知県生涯学習推進構想を策定しました。この構想に基づき、平成14年度には、生涯学習情報システム「学びネットあいち」の運営開始、愛知県生涯学習推進センターのオープンなど本県の生涯学習推進体制の整備を中心に、県民の多様化・高度化する生涯学習ニーズに対応した生涯学習施策を推進してきました。
- 構想策定後、16年の年月が経過し、超高齢社会の到来、経済格差の拡大による社会の一体感の希薄化、グローバル化の加速に伴う国際文化理解の必要性の高まり、環境など世界的規模で解決が図られるべき課題の増加など、社会経済情勢が大きく変化しています。
- こうした状況の中で、増加する元気な高齢者が「地域課題を解決する担い手」として活躍できる環境を整備したり、先の東日本大震災の教訓から人と人、あるいは地域社会がしっかりとつながり、お互いに支え合いながら共生する社会を築くことなどが生涯学習の大きな課題となっています。
- また、平成26年には、国連が定めた「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」最終年大会が愛知・名古屋で開催されます。「環境」と「交流」をテーマに開催された「愛・地球博」やCOP10の理念を継承し、持続可能な社会づくりを推進することが重要ですが、生涯学習においても、環境など世界的規模で対応が求められる課題を身近な問題として捉え直し、積極的な取組を進めることが求められます。
- なお、平成23年6月には、本県の教育振興基本計画である「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」において「豊かな人生を送るための生涯学習の充実」を重点目標の一つに掲げたことから、生涯学習の施策体系とその具体的な内容を明らかにする必要があります。
- 以上のことから、今回、新たな生涯学習推進計画を策定することとし、時代のニーズに的確に対応した生涯学習施策を推進していくこととします。

### 2 計画の性格

本計画は、生涯学習の推進に関係する様々な主体に期待される役割を示すとともに、本県生涯学習施策体系の整理とこれに沿った主要事業の内容を明らかにするものです。

### 3 計画の期間

平成25年度から平成29年度までの5か年

### 4 生涯学習をめぐる状況

県政世論調査（平成24年7月実施、対象は20歳以上の男女3,000人）により、県民の生涯学習に関する意識や状況を明らかにします。

#### 【調査項目】

- ① 生涯学習の実施状況、②生涯学習を行う目的・必要性、③生涯学習の機会、④生涯学習における課題、⑤学んだ知識の活用状況、⑥学んだ成果を活用していない理由、⑦学んだ知識を生かす機会、⑧生涯学習のイメージ

### 5 取組の視点

#### ○ 学びを生かす

個人の人格を磨き、人格を豊かにするためには、個人生活を充実させるための学習が十分確保されるよう、引き続き支援が必要ですが、学んだことを社会の中で役立てることにより、自らの社会的存在意義を認識し、社会的生活を充実させていくという視点も重要です。これからの生涯学習社会においては、個人の生活と社会の生活のバランスを図り、学んだ成果を社会で生かせる仕組みづくりと地域づくりに参画する中で新たに生じた課題を解決するための学びを支援することに重点を置きます。

#### ○ 地域の絆づくり

地域的なつながりが希薄化する中で、先の東日本大震災では、地域コミュニティにおける人と人との絆の大切さが再認識されています。また、様々な主体が連携・協働して、地域課題に対する取組を活発化することにより、新たな地域コミュニティが育てられることが期待されます。こうした地域コミュニティの背景となる、日頃の地域活動や様々な体験共有の場を増やすことに重点を置きます。

#### ○ 持続可能な社会の構築

近い将来、発生が予想されている東海・東南海・南海地震への備えや福島原発事故後におけるエネルギー確保のあり方など、日本における持続可能な社会づくりに関連する様々な課題について多くの人々の関心が注がれています。将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会づくりをするため、一人一人が世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを、日常生活、経済活動の場で意識し、行動するための学習に重点を置きます。